

2016年3月期第2四半期 決算説明会Q&A

Q: リストラの内容及び目的は？

A: 利益防衛のため、主として北米の開発と製造要員の削減を行った。これは、北米の事業を縮小する訳ではなく、現状の受注状況に応じた生産体制の縮小と開発の効率化が目的である。今後の受注状況に応じて、生産能力は増やすことは可能であると考えている。

Q: 北米市場は、低迷しているようだが、今後の見通しはどのように考えているか？

A: チップ・端末の大手ベンダーのリストラで、H1は低迷した。H2は、3CA市場が立上り、勢いが戻ってくると考えている。また今後は、LTE-Advancedおよび5G向けのネットワークに向っての投資が見込まれ、ネットワークインフラ用の測定器の需要が伸びてくると考えている。

Q: 5Gの市場に関して、R&D用の測定器の需要は、何時頃から立ち上がるのか？また、5Gの新たなテストに対応する為に開発費は増加するのか？

A: 5Gは、これまでの2G、3Gのようなテクノロジー・ドリブンでなく、IoT、セキュリティ等、対応しなければならぬアプリケーションが多岐に渡るため、R&D測定器のリリース時期は一時期に決まらなないと考えている。
対象範囲の広がりにより、新たなR&D用測定の開発投資も増え、我々のビジネスチャンスも拡大すると考えており、開発費もそのチャンスに応じてコントロールしていく。

Q: 下期の目標達成の確度をどのように考えているのか

A: Q2の受注は思わしくなかったが、案件そのものが無くなった訳ではなく、下期にずれこんだと認識している。
H2は、新製品である3CA対応の測定器と、ネットワークのスモール・セル化の進展に必要な測定器の受注・売上拡大を目指していく。
チャレンジングな目標ではあるが、達成可能であると考えている。

Q: 自動運転等、自動車に通信機能を標準装備する動きがあるが、測定器の需要はあるのか？

A: 既に通信モジュール製造用やシグナリング開発用測定器の引き合いは来ている。シグナリングの測定器は、顧客の要求に合わせる必要があり、今後の拡販に向けて最適なソリューションを作りこんでいく。

Q: PQA事業は好調のようであるが、何か新しい受注があったのか？また、TPPに関連した新しい受注は見込めるのか？

A: PQA事業は、引続き国内のコンビニ市場が好調である。TPPに関しては、これからビジネスチャンスを模索する。

(注)PQA事業: Products Quality Assurance (従来のセグメント名称 産業機械事業)